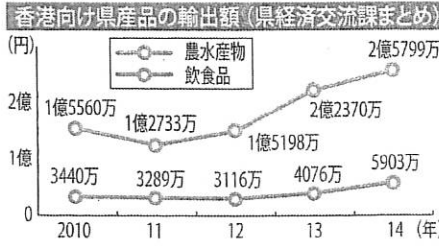


県産品の輸出促進

山形日本香港協17日発足



県産農産物の輸出促進とインバウンド(訪日外国人客)の受け入れ拡大を目指す。県内の経済人らを発起人とする山形日本香港協会が17日発足する。高級志向のマーケットを意識し、ブランド米としての地位を確立した「つや姫」、山形を代表するサクランボといった果物、高い品質で知名度が増している清酒などの売り込みを本格化させる。

事務局長によると、県経営者協会、JA山形中央会、米園、台湾などに次いで7番目だが、13年の14億9800万円から増加率106・6%と大きく増えた。電気・電子機器とその部品が輸出全体の6割以上だが、ここ数年は農水産物の伸びが目立つ。

県6次産業推進課の説明では、県産農産物の輸出数は15年度、過去最高の987トンを記録した。輸出先は①香港(343ト)②中国(296ト)③シンガポール(197ト)の順で香港が3分の1以上を占めている。輸出品目はコメ、リンゴ、牛肉、モモ、ブドウ、西洋ナシなど。富裕層の増加に伴い、アジア各国で高級感があがり安心な日本米の需要が高まっているという。

地域ブランドを保護する地理的表示制度で、国税庁

00万円から増加率106・6%と大きく増えた。電気・電子機器とその部品が輸出全体の6割以上だが、ここ数年は農水産物の伸びが目立つ。

が昨年12月、都道府県単位では初めて山形県産の清酒を「山形」として指定したことが追い風になり、今後は県産酒の輸出が増えることにもなりそうだ。インバ

ウンド関係では、以前は最大で週6往復が就航し、11年2月に運休となった仙台―香港便について、香港ト

ラゴン航空に復活を働き掛けた。大沼氏は「香港は山形から東南アジア各国に県産品を輸出する要衝

となる。将来的には総領事館に県職員が常駐する体制を目指す」と話している。同協会は3月、同総領事館の松田邦紀大使を山形に招